

伊豆大島における地下水水温の観測*

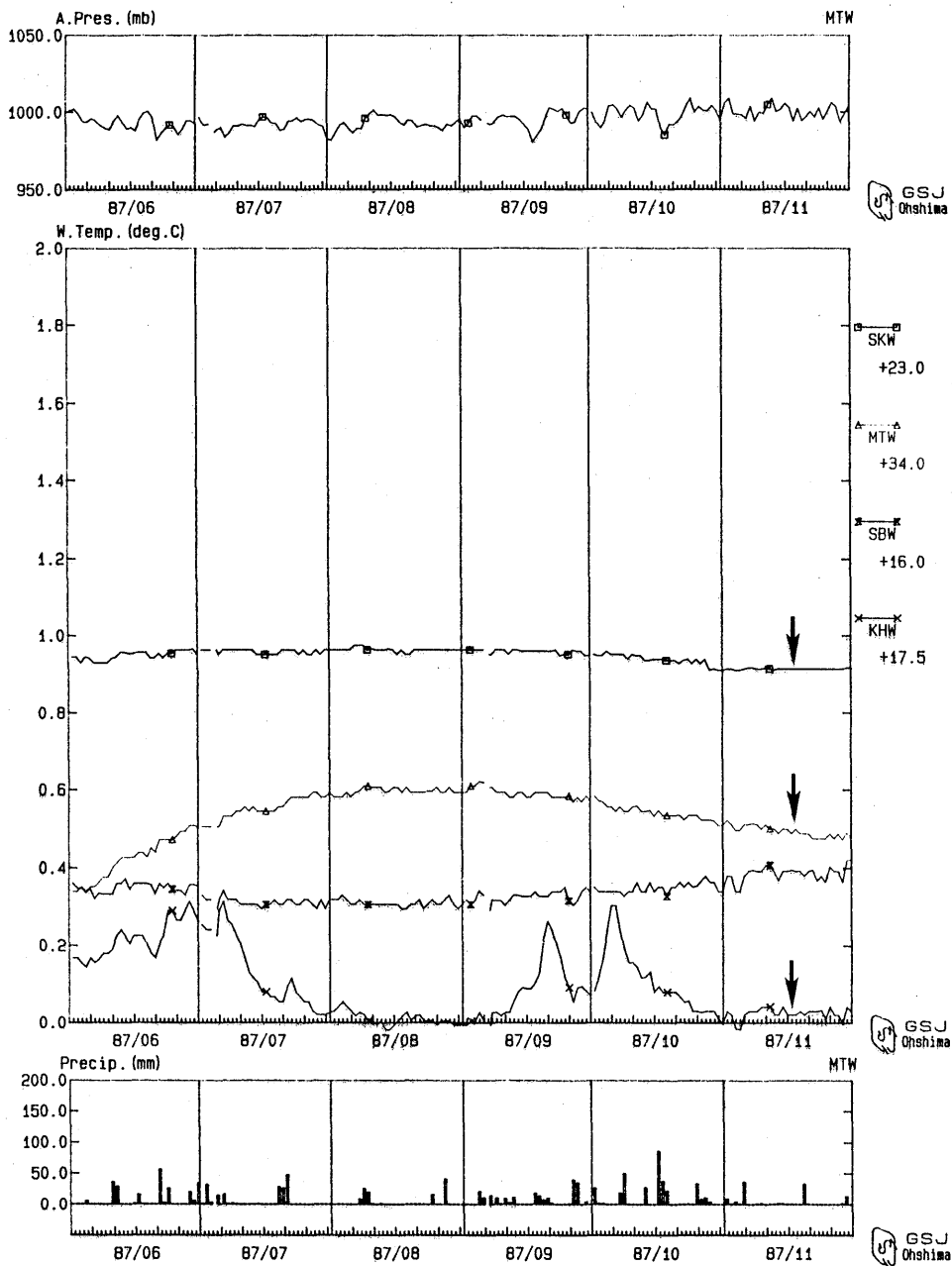
工業技術院地質調査所**

元町の水溫は観測開始以来急上昇を続けてきたが、7月になって上昇速度が鈍り、8月には34.6°C前後でほぼ一定となった。その後9月には下降に転じた。対照的に、低下を続けてきたシクボの水溫は9月から上昇に転じた。一方、新開の水溫は23.95°C前後でほぼ一定の値を保ってきたが、10月から下降し始めた。垣原では不規則な水溫変化が観測された。これらは季節変化である可能性も否定できないが、いずれにせよ元町で観測された34°Cを越える水溫は過去に例の無い値である。

1987年11月16日に三原山の約1年ぶりの爆発が起こった。しかし、いずれの観測井においても異常な水溫変化は観測されなかった(第1図中の矢印の時点)。また、同時に観測を行っている導電率にも変化は認められなかった。

* Received Jan. 18, 1988

** 安藤直行



第1図 各観測井における水温変化と垣原における日降水量
(1987年6月-11月)

Fig. 1 Changes in water temperature in each wall and daily precipitation at kakihara (Jun ~Nov., 1987)